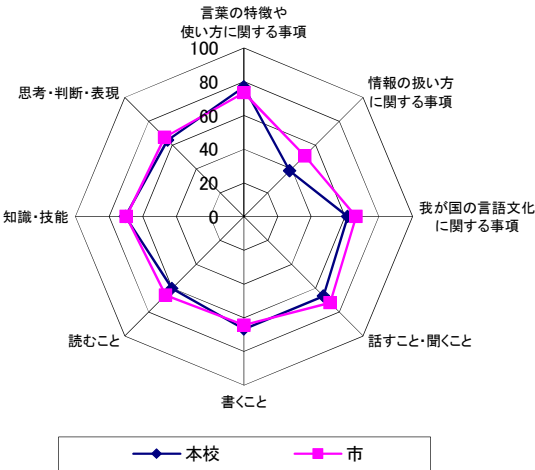


宇都宮市立平石中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	76.9	73.5	74.4
	情報の扱い方に関する事項	38.5	51.0	51.5
	我が国の言語文化に関する事項	61.5	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	66.7	72.3	73.7
	書くこと	66.7	64.3	66.6
	読むこと	60.3	65.8	64.9
観点別	知識・技能	70.3	69.8	70.8
	思考・判断・表現	64.1	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

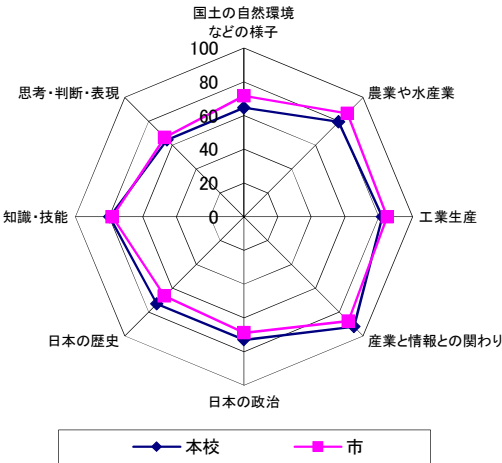
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	校内正答率は市の平均を上回った。 ○漢字の読み書きについては、市の正答率より低いものもあったが、漢字を読む問題では100%だった。 ●5年生の漢字の書き取りや、文章の中で文脈に沿った漢字を適切に使っている問題では、校内正答率が他の問題より低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み書きの確実な定着が図れるよう、引き続き取り組んでいき、文脈に沿った漢字を適切に使えるようにするための問題も適宜取り入れていく。 ・いろいろな本に触れさせ、言葉の幅を広げるようにする。
情報の扱い方 に関する事項	校内正答率は市の平均を下回った。 ●情報と情報との関係について正しく理解し、文章の情報を整理する問題は、市の正答率より12.2ポイント、目的に応じて、文章を簡単に書く問題は、市の正答率より12.8ポイントそれぞれ低い。複数の情報を整理したり、それを生かして文章を書いたりすることに課題がある。	・必要な情報は、目的に応じて変わるため、読む目的を明確にして情報を扱えるように指導する。 ・国語だけでなく、他教科でも文章中の言葉と資料や図表の関係する部分とを線で結び付けするなどして視覚的に理解できるように指導する。
我が国の言語文化 に関する事項	校内正答率は市の平均を下回った。 ●語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語について理解している問題では、5ポイント低い。正しく理解していないことが分かる。	・漢字の学習をする際には、低学年のときから漢字の成り立ちや外来語などについて触れながら適切に指導していく。
話すこと・聞くこと	校内正答率は市の平均を下回った。 ○意図に応じて、質問を工夫している問題については、市の正答率と比べて7.6ポイント高い。 ●インタビューの内容を捉える問題については、市の平均正答率に比べて16.6ポイント、自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える問題については、市の平均正答率に比べて7.9ポイントそれぞれ低い。話の内容を正確に聞き取ることに課題がある。	・普段から、自分の考えを伝え合う経験を積み重ねている。引き続き、考えを伝え合う活動を多く取り入れ、丁寧な指導を心がけていく。 ・国語の学習だけではなく、話し合いをするときには、「話し合いの意図を捉える、話し手の意図を考えながら聞く、自分の立場や考え方が伝わるように話す」ことを指導していく。
書くこと	校内正答率は市の平均を上回った。 ○目的や意図に応じて書き表し方を工夫することや、指定された条件で文章を書くことは、市の正答率を上回り、書くことの基礎はできていることが分かる。 ●情報と情報の関係について正しく理解し、目的に応じて、文章を適切に書くこと、予想される反論とそれに対する意見を書くことは市の正答率より低く課題が見られる。	・学習活動を通して、自分の考えを書く活動を日々行い、自分の考えを根拠をもとに書けるように指導していく。 ・指定された条件で文章を書くことや自分の考えを理由とともに書くことは作文の活動を積むことで力をつけてきているが、予想される反論とそれに対する意見を書くことが苦手な児童が多く見られた。様々な条件に応じて文章を書く活動を取り入れる。
読むこと	校内正答率は市の平均を下回った。 ○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている問題の校内正答率は100%だった。 ●物語の内容を読み取ったり、説明文の内容を読み取ったりする問題は、市の正答率より低く、課題がある。	・物語文では、情景描写や人物の行動から心情を考えさせる活動に取り組んできたが、今後も、描写から心情、心情に伴う描写などについて考えさせる活動を取り入れた指導をしていく。 ・説明文では、文章を論理的に読めるように、今後も低学年から系統的に指導し、文章全体の構成を正しく捉えられるような指導をしていく。

宇都宮市立平石中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	64.6	71.6	69.6
	農業や水産業	79.5	86.7	83.7
	工業生産	82.1	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	92.3	87.7	77.4
	日本の政治	73.1	68.9	71.7
	日本の歴史	73.1	66.7	66.3
観点別	知識・技能	79.6	78.0	76.7
	思考・判断・表現	64.4	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

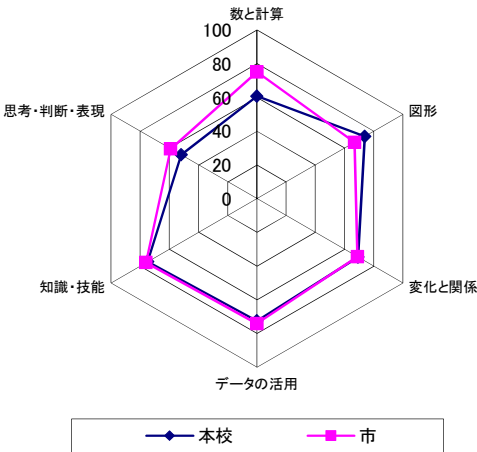
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	校内正答率は市の正答率を下回った。 ○世界の中の国土に関する問題では、日本の気候や周辺海洋名を正しく選択して市の正答率を上回った。 ●世界の中の国土に関する問題では、オーストラリアの位置と国旗についてと日本の主な地形の名称についてで市の正答率を下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・日本の主な地形(平野、山脈、河川等)の白地図や、復習用のプリント等を準備し、家庭学習等で活用し、さらに定着を図る。 ・社会的事象の意味について、考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるために、地図や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を効果的に活用し理解を深めさせていく。
農業や水産業	校内正答率は市の正答率を下回った。 ○日本の食料生産に関する問題では、米の生産の工程について市の正答率を上回った。 ●米の生産が盛んな地域についてや水産物の流通の工夫について資料を判断する問題では、市の正答率を下回った。	・1つの資料だけでなく、いくつかの資料を組み合わせながら、内容をしっかり捉えさせ、分かったことや考えたことを文章でまとめたり、伝えあったりする活動を取り入れ、児童がより理解を深められるようにする。
工業生産	校内正答率は市の正答率を下回った。 ○工業製品の分類に関する問題では、校内正答率は市の正答率とほぼ同じであった。 ●自動車の製造工程についてと日本の工業の特色に関する問題では、市の正答率を下回った。	・引き続き、身近な出来事について関心をもたせ、日常生活と工業生産を関連付けて考えることが出来るように指導を継続していく。 ・地図帳や資料集、またはタブレット端末を使い、動画や写真を見て、自動車工場の作業工程や出荷の工夫についての理解を高められるようにする。
産業と情報との関わり	校内正答率は市の正答率を上回った。 ○さまざまなメディアの特徴について問題の校内正答率は100%であった。	・引き続き、情報産業や情報化社会の領域においては、インターネット利用は自分の身の回りの問題であるという認識を高めながら、基礎事項を確実に定着させ、さらに自ら判断できるように指導を継続していく。
日本の政治	校内正答率は市の正答率を上回った。 ○日本国憲法の天皇の地位や内閣の働きに関する問題では、市の正答率を上回った。 ●国民の義務についてと国民と国会と内閣の関係についての問題では、市の正答率を下回った。	・家庭と連携して、ニュースを見たり、新聞を読んだりするなど、世の中への興味関心を広げるようにする。 ・日本国憲法についての基本的な用語は確実に覚えらるるようしていく。また、国会・内閣・裁判所の役割・関連を理解させるために、新聞やニュースの記事などを授業に活用し、時事問題への関心を深められるようにする。
日本の歴史	校内正答率は市の正答率を上回った。 ○縄文時代から江戸時代までの理解を問う多くの問題で、市の正答率を上回った。特に書院造の部屋の特徴についての問題の正答率は100%であった。 ●源氏物語についての問題では、市の正答率を下回った。	・1つの資料だけでなく、いくつかの資料を組み合わせながら、事象をしっかりと捉えさせ、その時代の出来事や人々の生活の様子などを把握することができるよう指導を重ねていく。 ・教科書や資料集の用語を使って、単元ごとに課題を明確にする。さらに日常のノート指導などを通してノートのまとめ方などを指導していきたい。

宇都宮市立平石中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	60.8	75.1	75.8
	図形	73.8	66.8	68.3
	変化と関係	69.2	68.8	65.0
	データの活用	72.5	74.1	63.6
観点別	知識・技能	74.8	76.1	75.8
	思考・判断・表現	51.9	59.0	51.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

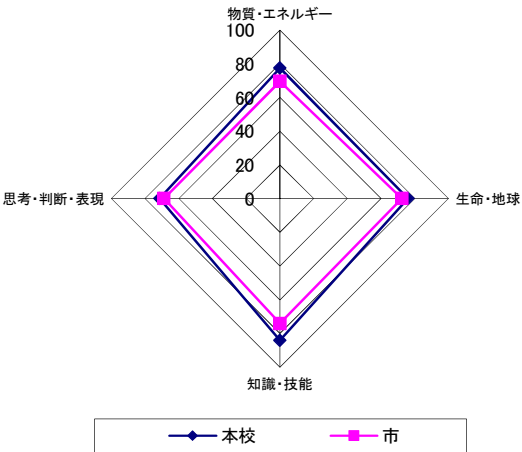
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	校内正答率は市の正答率を下回った。 ○通分が必要な分数の足し算の計算の正答率が100%であった。 ●少数のかけ算や、文字を使って表された式で、一方の文字の値から他方の文字の値を求める問題の正答率は市の平均を大きく下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基本的な計算力は少しずつ身に付いてきている。引き続き、朝の学習や宿題を通して、小数の計算を中心に組みませ、確実な定着を目指していく。 ・必要に応じて新しい単元の前に既習事項が定着しているかチェックしたり、朝の学習の時間に復習問題に取り組ませたりするなどして基礎的な力が身に付くようにする。
図形	校内正答率は市の正答率を上回った。 ○正六角形の作図方法から、円の中心のまわりにできる角の大きさを求める問題や点対称な図形の長さを求める問題の正答率が100%であった。 ●複数の図形の中から点対称かつ線対称である図形を選ぶ問題の正答率は市の平均を下回った。	・これからも、いろいろな図形の問題に触れさせ、その性質などを見出し、統合的・発展的に考察する力を育てていく。正多角形の問題にも多く取り組ませていく。 ・授業時間だけでなく、家庭学習などでも作図の課題に取り組ませ、正確に作図できるようにする。
変化と関係	校内正答率は市の正答率をやや上回った。 ○表から面積と数の割合を求める問題と、速さと道のりから、時間を求める問題の正答率は市の平均を上回った。 ●基準量と比較量から、割合を求める問題の正答率は市の平均を下回った。	・単位量あたりの大きさや速さの問題に対しては、いろいろな場面の状況による求め方に取り組ませ、日常生活の中で定着が図れるようにする。そして、生活体験や身近な事象からの問題で意欲を高めていきたい。 ・文章の読み取りが必要な問題は、何を解答すればよいか正しく押さえられるよう指導するとともに、発展的な問題にも習熟状況を見て取り組めるようにする。
データの活用	校内正答率は市の正答率を下回った。 ○値に0があり、答えが小数になる分離量の平均を求める問題の正答率は100%であった。 ●最頻値を求める問題と、走る距離と歩幅の平均から、ある距離を走るときにおよそ何歩かかるかを求める問題の正答率は市の平均を下回った。	・引き続き、算数以外の社会や理科などの時間にも、様々なグラフの読み取りを行い、どの資料からどのようなことが読み取れるか多くの視点から捉えられるようにし、自分の言葉で表現できるようにしていく。

宇都宮市立平石中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	77.4	69.5	65.2
	生命・地球	76.0	72.3	70.1
観点別	知識・技能	84.0	74.0	70.7
	思考・判断・表現	71.4	68.7	65.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	校内正答率は市の正答率を上回った。 ○特に「ふり子のきまり」と「物の燃え方」の単元については、校内正答率が市の正答率を大きく上回っている。 ●「もののとけ方」の単元で、水にとけた食塩とミョウバンを取り出す方法を考える問題では、どの実験が適切か選ぶことに課題が見られた。	○学習した内容を児童の経験や生活と結び付けたり、追加の実験や思考実験などを取り入れたりし、身につけた知識・技能を活用する力を育てる。
生命・地球	校内正答率は市の正答率を上回った。 ○「生物とかんきょう」や「植物のつくりとはたらき」の単元については、校内正答率が市の正答率を大きく上回っている。 ●「流れる水の働き」の単元で、山の雨量と下流の川の水位の関係をグラフから読み取る問題では、データを水の量を関連付けることに課題が見られた。	○学習したことをもとに、自然現象で起きることを説明したり、天気予報からどのような災害が起こるか予想をさせたりする等、身につけた知識・技能を活用する力を育てる。

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの